

4月から技師1名が加わり9名体制となったが、年度途中でスタッフが産休に入ったため非常勤スタッフを補充し検査室の運営を行った。

【検体検査】

前年度から始めた病棟からの早朝検体回収の結果、病棟で採血された検体の到着遅れや検体紛失などがほとんどなくなった。10月には熊本県救急輪番制補助事業に老朽化した生化学自動分析機、HbA1C測定器、新規に免疫測定装置の購入申請を行い、3月には新機種に移行することができた。

出前健康講座では“検査データからみた透析予防”という新しいテーマで参加した。

又、検体検査数は前年度に比べ400件増加した。

【生理検査】

超音波検査の乳腺、心臓、腹部領域でそれぞれ1名ずつ研修を終え、業務の拡大ができ、さらに症例を重ね知識や技術向上に努めている。

生理検査数も2013年度は前年度に比べ290件増加した。

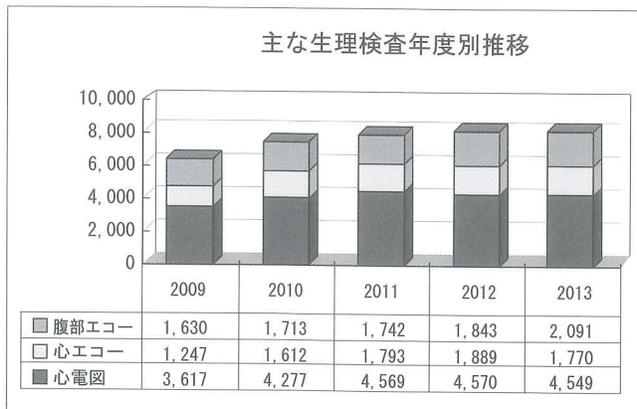
【今後の展望】

2014年6月に電子カルテの更新を予定しており、検査室でも準備を進め円滑な更新を図りたい。そして更新時に合わせ免疫測定装置を導入し、腫瘍マーカーも外来時に結果報告が可能となる予定である。

また次年度からは健診センターも週4日の稼働になり、さらに受診者増加が期待されるため受診者の検査がスムーズに行えるよう検査の効率化を図りたい。

超音波検査は乳腺、心血管、腹部、甲状腺領域など、今後も研修を行い、最終的には検体部門と生理検査部門のスタッフローテーションを目指していきたい。さらに要望のある健診センターへの技師派遣や外来での採血支援など積極的に検討していきたい。

主な生理検査年度別推移



主な検体検査年度別推移

